

会議録

会 議 の 名 称	第3回 清須市公共施設個別施設計画（仮称）策定委員会
開 催 日 時	平成31年3月5日（火） 午後3時30分～4時45分
開 催 場 所	清須市役所 北館2階 第1・2会議室
議 題	1 あいさつ 2 議題 (1) 一次評価・二次評価における考え方について (2) 今後20年程度の適正配置検討案について 3 その他
会 議 資 料	資料1 一次評価・二次評価における考え方 資料2 今後20年程度の適正配置検討案
公 開 ・ 非 公 開 の 別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	0人
出 席 委 員	小松委員（委員長）、後藤委員、富田委員、飯田委員、風岡委員、葛谷副市長、斎藤教育長、平子総務部長
欠 席 委 員	なし
事 務 局	〔総務部財政課〕 森高総務部参事、岩田課長、石田課長補佐、炭竈係長、清本主任
<p>1 あいさつ (岩田課長) 皆様、こんにちは。財政課長の岩田です。 本日は、お忙しいところ、本策定委員会にご出席いただき、ありがとうございます。 この会議は、規定により公開となります。よろしく願いいたします。 それでは、第3回策定委員会を開会いたします。始めに、市を代表し、葛谷副市長から、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>(葛谷副市長) 皆様改めましてこんにちは。 本日は大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。 11月の第2回会議に続いての第3回会議となります。 これまでの会議の中でもお話ありましたように、これからの時代は少子高齢化社会ということで、課題等を見据えた施設のあり方を考えていかなければなりません。 当然のことながら人口減少や少子高齢化が進むと、社会保障費等で財政を圧迫していくということになります。こういったことは事前にわかっている状況でございますので、何か対策を打っていかなければなりません。 また、前にもお話したように、人口が減ると当然市職員数も減っていきます。そうし</p>	

たことも含めて、行政資源を効率的、効果的に用いて市民サービスを実施していくといったことを踏まえて、公共施設の再配置を進めていかなければなりません。

どこか特定の施設だけ見直しやリニューアルができたとしても効果は薄く、清須市全体の最適化を目指していかなければ意味はないと考えております。皆様のご協力を得て公共施設のあり方を検討していきたいと考えております。

平成30年度の会議は本日で最後とはなりますが、計画策定は2ヵ年にわたる取組みになりますので、4月以降の平成31年度も皆様方にはご協力いただきますようお願いするとともに、本日、活発なご議論を期待して、私の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(岩田課長)

それでは、ここからは、小松委員長に会議の取り回しをお願いします。小松委員長、よろしくお願ひします。

(小松委員長)

それでは改めまして、みなさんこんにちは。

早速議題に移りたいと思いますが、本日は、前回検討中であった2次評価結果も含めて、方針(案)について事務局から説明していただきたいと思います。

それではお手元の次第をご覧ください。本日は議題(1)「一次評価と二次評価における考え方について」、議題(2)「今後20年程度の適正配置方針(案)について」の2つの議題を議論してまいりたいと思います。

議題(1)と議題(2)の2つをまとめて事務局から説明してください。

(炭竈係長)

財政課管財係の炭竈でございます。私から議題(1)を説明させていただきます。

【資料1の1から5ページ目を説明】

(清本主任)

財政課管財係の清本でございます。私から議題(2)を説明させていただきます。

【資料1の6ページ目、資料2を説明】

(小松委員長)

ただいま事務局から、議題(1)、(2)の説明をしていただきました。

まず議題(1)では、これまで取り組んできた、一次評価、二次評価について整理しました。特に清須市の特徴として、まず、施設利用面では、今後40年で少子化・高齢化の進展を意識する必要があること。次に施設の更新等の時期を見ると、清須市は今後20年を境に、前期・後期に大きく2つに分けることができ、後期に大きな施設の改築等が集まり、前期はそのための準備期間であることが言えます。

続く議題(2)では、議題(1)を踏まえ、2038年までの今後20年間において、施設の類型別に更新や長寿命化、あるいは施設どうしの統合などといった施設のあり方の方針をお示ししたところです。

これらの説明を踏まえ、議題(1)及び議題(2)について何かご意見・ご質問がありましたらお願ひいたします。

(清須市文化協会会長 富田友一委員)

資料1について、施設総量の縮減17.7%は、どのように算出したのか。

(事務局)

数値は、今後40年間において、現在の公共施設を全て維持する場合に係る経費と現状

で捻出できる経費の差を埋めるために、どれほどの延床面積を縮減する必要があるかを算出したものである。17.7%の数値は、平成28年度に策定した清須市公共施設等総合管理計画に記載されている。

(小松委員長)

施設総量の縮減目標17.7%は、あくまで施設総量での考え方であり、全ての施設をおしなべて17.7%削減することはできない。施設の面積は異なり、また、将来の人口構成も変化するので、個々の施設の状況は異なる。

(清須市体育協会会長 後藤悦男委員)

資料2について、体育館が飽和していると言われたが、利用状況と施設のどちらが飽和しているということか。

(事務局)

体育館については、休日、夜間等の特定の利用が飽和しているという意味であり、利用時間によっては、利用率が低い時間帯がある。

(後藤委員)

施設の話をする、値段が高いから使えない、混んでいるから使いにくい、といった意見をよくもらうが、どうしても目先の話が多くなる。ただ、長期的に見ると施設の統合は妥当と考えている。その際は、施設の規模など、利用する上で十分なものになればよいと思う。

(清須市寿会会長 飯田孝委員)

資料2で、新川福祉センターを小学校に複合化することを検討されているが、新川福祉センターにある入浴場は、どれほどの利用状況で、今後どのようにしていくと考えているのか。午前は湯がきれいだが、午後は汚いとも聞いているし、入浴施設があると施設全体の劣化が早まる。入浴場は本当に今後も必要であるのか。

(事務局)

入浴場の利用者数については、資料を持ち合わせていないためわかりかねる。入浴場はコストがかかっていることから、今後のあり方については、担当部署と検討していきたい。只今拝聴したご意見は、老人福祉施設の中で入浴施設が必要なのか、高齢者へのサービスとして他の機能が合ったほうがよいのではないかと考えたことを考える上で大変示唆に富んだものであり、今後の施設再編を検討する上で、十分に参考としていきたい。

(斎藤教育長)

さわやかプラザには大ホールがあるが、スポーツ施設として扱わないのか。また、築年度は、施設の中で最大面積のものが表記されているが、建物の改築時期を基に統合・複合化の検討していく上で誤った検討をされる懸念はないか。

(事務局)

さわやかプラザの多目的ホールは、様々な用途で利用されており、スポーツに限定されないことから、分類する上では、スポーツ施設として扱っていない。資料2の築年度については、表記のルールで最大面積のものを示しており、棟が複数ある施設については、面積按分して評価している。こうした整理をしているということでご理解いただきたい。

(清須市保育園保護者会連絡協議会会長 風岡雅美委員)

保育園については、家からの距離が遠くならないことが望ましい。そのため、保育園の

施設数が現状よりも減少しなければ、保育園を民営化してもよいと思う。また、民営化は学習面などについて特色が出ることからよいと思う。

(富田委員)

幼稚園は西枇杷島に1つあるが、どういう立ち位置になるのか。

(平子総務部長)

公営と民営の運営形態については、どちらがよいかではなく、地域にある施設をどのように活用していくかが大切となる。

(後藤委員)

保育園を民営化したときの保育料はどうなるのか。

(事務局)

保育料は、基本的には同じものになる。

(平子総務部長)

ただ民営化となると、運営が私立なので、教育等のオプション等があれば、金額は変わると思う。

(飯田委員)

清須市の方が、民営化になった西春幼稚園や甚目寺幼稚園に通っているところを見かけるが、市外の幼稚園または保育園に通っている子どもの数は把握しているか。

(平子総務部長)

他市の幼稚園等に通っている方の数と通園先については、教育委員会で把握している。

(富田委員)

清須市内と市外の幼稚園で、補助は異なるのか。

(平子総務部長)

補助については、ほとんど同じであるが、市町村によっては、低所得者に上乘せしている地域があるため、若干のばらつきがある。

(小松委員長)

資料2では、施設の老朽化対策の時期に合わせて統合・複合化を検討されているが、地図上に統合・複合化を表現した場合に、それが適切であるかを今後検討していただきたい。

学校については面積が大きいことから、今後、複合化していくことが望ましいと思う。

他市の中には、公共施設の今後のあり方よりも延床面積の縮減について強調しているところもあるが、清須市では、「公共サービスの質の向上」の部分で、清須市の将来のあり方を明確に示している点は評価できると思う。

(平子総務部長)

現在、検討対象の施設にある「飴茶庵」と「西枇杷島問屋記念館」については、古い建物を活用して保存していることから、扱いを別で考えた方がよいと思う。

(事務局)

「飴茶庵」と「西枇杷島問屋記念館」については、劣化度調査による健全度の判定を実施しておらず、現状でも別の扱いとなっている。

(小松委員長)

歴史的な建造物は、統合・複合化の対象施設として馴染まないように思うので、事務局で扱いを考えてほしい。

(葛谷副市長)

40年後は、子どもの数が減少しているが、統合・複合化を検討する際に、小中学校を一緒にしていくような検討は今からすべきものなのか。

(小松委員長)

多くの市町村では学校の面積が公共施設の4、5割を占めている状況で、早い都市だと既に統廃合や小中一貫を実施している。そのため、今後、幼稚園、小学校、中学校を一貫にしていくことは、議論の対象となってもよいと思う。

(風岡委員)

保育園も学校に複合化することは検討していくのか。

(事務局)

学校への複合化は、保育園を民営化した後でも検討すべき内容だと思う。

(小松委員長)

今回説明された資料について、現在の条件を基に作成されているが、ものにはタイミングがあり、例えば、時代が進めば財政状況がよいうちに複合化等を実施してしまおうという考え方もある。施設の統合・複合化の組合せ、又は時期は、時間経過によって変化するとの認識で見えていただければと思う。

(小松委員長)

つづきまして、「その他」ですが、本日の会議全体を通しまして、何かご意見・ご質問等はございますでしょうか。

それでは、本日の議論ですが、事務局からの説明については、ご了承いただいたたという事でよいかと思えます。

では、以後の進行は、事務局へとお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

(炭竈係長)

本日はありがとうございました。

今年度の委員会につきましては、本日をもって終了いたしますが、計画の策定に向けて、次年度以降も検討会議を開催して議論してまいりたいと考えております。

ここにいらっしゃる皆様方にも引き続き検討委員をお願いしたいと考えておりますので、改めてお願いにあがります。

皆様どうぞよろしくお願いいたします。

(岩田課長)

長時間にわたり、どうもお疲れ様でした。本日、財政課管財係から説明いたしました内容につきまして、ご不明な点などがございましたら、何なりとお問い合わせいただければ幸いです。

以上で、第3回策定委員会を閉会いたします。

本日はお忙しいところご出席いただき、ありがとうございました。